

身近に呼び寄せられる友だち

ヨーロッパやアメリカでは、野生のトリたちにえさを与えて、身近に呼び寄せる習慣があたり前になっています。日本でも、ハトが集まって人々の手からえさをもらったり、たくさんの野生のカモが人をおそれず岸近くに遊んでいた場所がふえてきました。私たちが、庭や、ベランダや、窓のそばに、可愛い友だちを呼んでみませんか。

野鳥にえさを与えるのは、とくに自然のなかにえさが不足する冬季には、栄養を補給して、弱ったり凍死するのを防ぎ、来年の繁殖率をたかめる大きな役割を果たします。そして、なによりもトリたちをよく観察できますから、図鑑とじっくり比べてみたり、トリの名や特徴がわかって、親しみがわいてきます。コタツにあたりながらでも「あ、またあのトリがきている——」と、顔つきまでわかってくる楽しさが加わってきますよ。ただし、招待するのは冬だけ。春になったら、トリたちを自然にかえしてやりましょう。

友だちを上手に＜招待＞するために

その大原則は、えさを与える、水を与える、実のなる木を植える、巣箱を与える、の四つですがここではごく簡単に招待できる方法として、まずえさと水のお話をします。

- ①おどろかさないうこと。
- ②えさを絶やさないようにすること。
- ③えさの場所をあまり変えないこと。

えさを与えるのに、特別な入れものが必要ということはありません。平たい石や、中の朽ちた丸太でも、地面にまいてもよいのですが、風に飛ばされたり、雨で流されたり、犬やネコにじやまされないような工夫が大切です。えさは市販のものもありますが、ほかに、ヒエ、アサノミ、トウモロコシ、ヒマワリやカボチャのたね、ピーナッツやクルミを砕いたものなどをまぜたり、図にあるように、あぶら身や砂糖水など、意外なものもトリたちの大好物になっています。

えさには、トリの種類によって好き嫌いがあるようですが、水にはありません。とくに都会ではトリたちの飲める水が少ないので、水たまりや泉水をつくっておくと、よこんでやってきて、飲むだけでなく、水浴びもします。これは、寄生虫予防のためで、1日1回、トリはきれい好きです。

さあ、トリたちの美しい声、可愛い姿を観察してみよう。1羽ずつやってくるものもあり、群れでくるものもあります。ちがう種類が、えさ場ではちあわせすることもあります。思わず笑ってしまう面白い光景にもぶつかります。楽しく健康な生活環境が、もう、ここにも立派につくられたことになるのです。トリたちにとって——



ヒトのそばにトリの保護区を

財団法人日本鳥類保護連盟 サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社からシリーズとして制作するものです。

可愛い友だちを招待しよう 冬休み

タチバナモドキの実をつつきにきたツグミ。この木の実はジョウビタキやアカハラも大好物。ほかに、トリが好きな実のなる木として、トキワサンザシ、アオキ、マサキ、ヤブツバ、ヒサカキ、モッコク、ナンテン(以上常緑樹)、ガズミ、ムラサキシブ、ヤブムラサキ、コマユミ、ナツハゼ、エゴ、スノキ、ツルウメモドキ、ヤブデマリ、ゴンズイ(以上落葉樹)などがあります。



牛肉のあぶら身をたべるシジュウカラ。あぶら身は針金で木の幹にまきつけたり、金網でおさえたり、細い枝からつり下げます。牛や豚の骨も、シジュウカラ、ヤマガラ、コガラなどカラ類がたねんになつてくべます。

シジュウカラ

ウグイス

砂糖水や蜂蜜を小型のビンやグラスに入れておくとウグイスやヒヨドリ、メジロなどが飲みます。ジュースなどで色をつけておくと、見つけやすいせいか、よくきます。もちろんジュースも飲みます。

オナガ

カワラヒワ

スズメ

パンをたべるオナガ。ムクドリやツグミ、シジュウカラ、ウグイスも大好物です。パンは5ミリくらいにして、乾いたものを。

ジョウビタキ

水を飲むジョウビタキ。水たまりに、浅いところと深いところをつくっておくと、浅いところではトリたちが水を飲むのが見られます。

そのほかのえさの種類と、来るトリの種類
ヒエ・アワ スズメ、ホオジロ、アオジなどの小鳥、コジュケイ、アサノミ スズメ、カワラヒワ、シメ、ウツ、ベニマシコなどくちばしの太い種類と、ヤマガラ、ヒマワリやカボチャ・スイカのたね カワラヒワ、シメ、シジュウカラ、クルミ・ピーナッツ シジュウカラ、ヤマガラ、コガラ、ヒガラなどカラ類の大好物。

愛鳥の心が育てるよい環境 8
(日本鳥類保護連盟募集第一席入選愛鳥標語)